

## 巻頭言

愛知教育大学健康支援センター センター長・教授 田中 優司

2023年は明るいニュースとして、WBCで日本代表が14年ぶりに優勝したり、エンゼルスの大谷翔平選手がメジャーで本塁打王になったり、将棋の藤井聡太竜王が史上初の八冠独占を成し遂げたりしました。気象については、夏（6-8月）の平均気温が過去最高になったり、秋（9-11月）の平均気温も最高を記録したりしています。

さて備忘録となりますが、2023年の医療界のニュースを紹介します。今年も印象に残ったニュースには新型コロナウイルス感染症に関連することが多くありました。

一番目は新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行しました。2020年1月に国内で初めての感染者が判明して約3年4カ月が経過しました。2023年5月から感染症法上の「新型インフルエンザ等」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行しました。10月からは治療薬の自己負担が発生し、2024年度からはワクチンも定期接種となります。

二番目はマスク着用が屋内外問わず自己判断になりました。新型コロナの5類移行に先立ち、3月からマスクの着用は自己判断になりました。厚生労働省では医療機関や高齢者施設等を受診・訪問する際にはマスクを着用するように呼び掛けています。屋外でマスクをする人は徐々に少なくなっています。新型コロナウイルス感染症に伴う様々な規制の緩和に向けて、動いている様子が窺われます。

三番目はアルツハイマー新薬が承認されました。この薬剤は早期、軽度のアルツハイマー病患者の疾患進行の悪化を抑制する作用があり、認知症の原因物質に直接作用する医薬品となります。治療を受ける場合には現在のところかなりな高額になるようです。

健康支援センターにおいても新型コロナウイルス対応は大きな課題です。今後、落ち着きつつあるとはいえ、学生・教職員におかれましては引き続き、感染予防対策に留意していただきますようお願いいたします。

今後も健康支援センターでは学生・教職員の健康支援をすすめていきます。

今後ともよろしく申し上げます。